活動助成（2010 年度募集）活動実績報告書

団体名	中越・KOBE 足湯隊
活動テーマ	足湯の「つぶやき」と「つながり」がつくる「安全で安心できる社会」モデルの確立・普及活動 ―東日本大震災被災地での足湯ボランティア活動から―

「つぶやき研究会」構成員

役職	氏名	所属
代表	後藤　早由里	神戸大学、中越・KOBE足湯隊
事務局長	村井　雅清	被災地NGO協働センター 中越・KOBE足湯隊事務局長
メンバー	浅野　壽夫	神戸学院大学教授 防災・社会貢献ユニット長
メンバー	竹内　麻里	神戸大学、中越・KOBE足湯隊
メンバー	西井　開	神戸大学、遠野ボランティアバスプロジェクト
メンバー	柚原 里香	被災地NGO協働センター
メンバー	藤室　玲治	神戸大学学生ボランティア支援室
メンバー	林　大造	神戸大学学生ボランティア支援室

その他、神戸大学生などのメンバーがいる

分析対象となる「つぶやき」

- 東日本大震災被災地、特に岩手県の「遠野まごころネット」を拠点に活動した「つぶやき」が分析対象
- 被災地NGO協働センタースタッフ等が3月～7月までに集めたつぶやき
  約：900件
- 神戸大学遠野ボランティアバス5回で集めたつぶやき（5月～9月、11月）
  約：600件

神戸大学遠野ボランティアバスの足湯（陸前高田市高田町で）

夏（8月）は仮設住宅の外でテントを張って足湯を行う。
冬（11月末）は和野会館という地域の集会所を借りて、近隣の小規模（12～33戸）の仮設住宅住民と地域の方に足湯を提供した。

分析するテーマと担当

- 防災意識と避難行動：担当　村井雅清
  防災意識、避難行動についての「つぶやき」を分析し、そこから教訓と課題を取り出す。佐用町水害の「つぶやき」とも比較
- 被災後の生活と要望：担当　藤室玲治　協力　増島智子
  「医療・健康」「避難所・生活」「学習・進学」「仕事」「要望」などの「つぶやき」から被災後の被災者の生活状況（避難所・仮設住宅・地域での）と、問題点、今後の課題などを抽出
- コミュニティ意識：担当　浅野壽夫
  「懐古」「世間話」「再生に向けて」などの「つぶやき」から被災者のコミュニティ意識（地域の生活・地域への愛着・今後の復興への考えを含む）を抽出
- 死と向き合う：担当　藤室玲治
  被災により、身近な人を亡くした方々が、どのようにそうした死を捉えて、向き合っているのかを抽出

2011 年 3 月 11 日発生の東日本大震災で、そのスタイルのユニークさから再び注目を集めた災害救援活動に「足湯ボランティア」がある。この足湯ボランティアとは、タライに張ったお湯に足をつけてもらい、向き合って手や腕を 10～20 分ほど軽くさすり、被災した人にホッとしてもらうという単純なものである。簡単な研修を受ければ、誰でも実践できる。この足湯ボランティアを受けている間に、被災した人は、被災のこと、仕事のこと、家族のこと、生活のことなどをお話しされる。こうした被災者のお話しを私たちは「つぶやき」と呼んでいる。こうした何気ないつぶやきの中にこそ、被災した人の真のニーズが表現されていると私たちは考えている。

今回、東日本大震災被災地、主に岩手県沿岸部で 2011 年 3 月～11 月にかけて活動した神戸大学生等の足湯ボランティアがひろった「つぶやき」1500 件を対象にして、主に「防災意識と避難行動」「被災後の生活と要望」「コミュニティ意識」「死に対する意識」「被災地の人間関係」の 5 つのテーマについて分析し、課題提案を行う報告書を作成した。

この成果は、これまでの被災者の生の声を反映させた施策立案などの形で、今後の東日本大震災の復興に寄与することができる。また、今後に起こりうる大災害への対応についても有益な視点を提供すると考えている。